

「コーヒーから国際協力考える」

フェアトレードを紹介

秋田

フェアトレード(公正貿易)のコーヒーを切り口にして、秋田と世界の関係を考えようというフェアが、12月まで秋田市で開

12月まで

かれている。6回シリーズで、地域のイベントにカフェを出し、11月26日に講演やワークショップを交えたセミナーを開く。

ルヴェ」。コーヒー生産者の立場に立つて生産や取引を模擬体験するワークショップ、フェアトレードの実践や地産地消の考え方についての講演、討論会などを行う。セミナーに足を運んでもらうため、事前にイベントへカフェを出店してPRしようという狙い。

23日、JR秋田駅東口

を提供した。

のアルヴェで行われた「コミュニティビジネス公開オークション」。会場の一角に、コーヒーのブースが登場した。手作りのパネルやチラシでフェアトレードを紹介し、1杯100円でフェアトレードのタイ産コーヒー

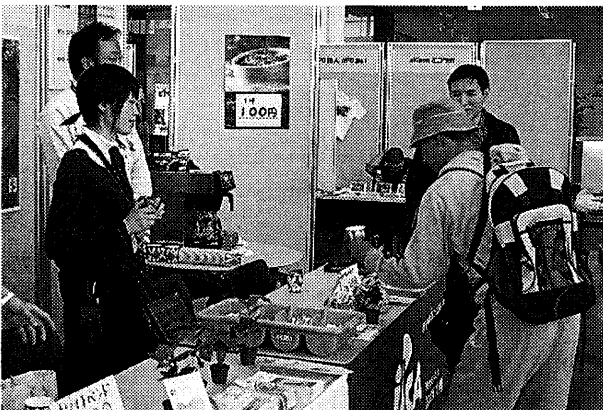
「フェアトレードフェア」と名付けた催しで、国際協力機構(JICA)東北支部と、学生、教員、会社員ら約15人が参加する実行委員会が企画している。「JICAで行う国際理解事業の一環として、最近話題にな

っているフェアトレードを切り口にしてしようと考えた」とJICA秋田デスクの菊地格夫さん。

11月13日は同市大町3丁目「ギャラリー」ラボラトリー」に出店。12月18日には、活動の報告会も予定している。

実行委員の一人、吉田理紗さん26は「国際協力なんて、自分の生活とはつながりがないと思っていたが、フェアトレードについて学び、できることがあると感じた」と言う。

セミナーの申し込みなど、問い合わせは、JICA秋田デスク(電話018・864・1118、ファクス018・864・0160)へ。



23日に出店したブース。29日に同じ場所である「あきた国際フェスティバル」にも参加する＝秋田市のアルヴェで

メインイベントは、11月26日のセミナー「フェアトレードフェアinア

くらし経済